価値ある準優勝

関東大学ラグビー連盟SEVEN AS IDE大会Aブロック＝4月22日、拓大八王子グラウンド

巧みなステップで相手をかわす夏井大樹（商2・秋田中央高）＝決勝

今年度最初となった7人制ラグビーの大会で、専大は準優勝した。

準決勝は中大に41―5で快勝し、決勝は東海大と対戦した。前半は相手に2トライで先制されるも、初戦から全試合でトライを決めていた夏井勇大（商3・秋田中央高）と、山崎凌太郎（経済3・東福岡高）がトライを奪い返し、12―12の同点で折り返した。後半も先行されたが、松浦祐太（商4・小倉高）が相手の隙をついてトライを決め逆転した。しかしその後、2トライを奪われ19―31でノーサイド。敗れたものの、リーグ戦に向けて手応えをつかむ価値ある結果となった。

村田亙監督は「1、2回戦はどちらも0―10と先行される不利な状況からでも自分たちのラグビーがしっかりできて、逆転することができた。優勝できなかったが、1年次生も含め全員がよくやってくれた。試合を通して成長したと思う。専大ラグビー部の強さを見せることができたので、この経験は15人制でも生きてくる」と語った。（高田康平・経営2＝写真も）

Zoom UP

卓球部 木村（きむら） 香純（かすみ）（経営1・四天王寺高）

偉大な先輩に続く

高校時代はインターハイの団体3連覇に貢献し、2年の時にはインターハイのシングルスで3位に入賞。卓球部期待のルーキー、木村香純（経営1・四天王寺高）に話を聞いた。

入学して1カ月がたち、専大卓球部の印象を「全員が真面目で、練習も緊張感のある雰囲気。高校ではコーチやトレーナーなどに任せっきりだったが、自らやらなくてはいけないことが増えた」と高校との違いを語った。

「卓球の技術がどれだけ上がっても、人間力が必要だと思うので、人との接し方を大事にし、周りの人から応援されるような選手になりたい」とプレー面以外での成長も目指す。

輝かしい戦績を誇る専大での抱負を「歴史を築き上げてきた偉大な先輩方に続き、団体でも個人でも結果を残したい。目標は全日本学生選手権での優勝。海外遠征にも行きたい」と目を輝かせた。

新たに始まる〝大学卓球〟の舞台。

自身の持ち味だという「攻めの卓球」で、その名をとどろかせてほしい。

（久保信裕・文3＝写真も）

女子 決定戦制し5位

全日本学生初出場決める

関東学生アーチェリーリーグ戦5位決定戦＝5月6日、横浜市・明治学院大学洋弓場

女子が創部初となる全日本学生王座決定戦（6月16、17日、静岡県掛川市・つま恋リゾート）出場を決めた。

関東学生リーグ戦のBブロックを3勝2敗の3位で終えた女子は、Aブロック3位の学習院大との5位決定戦に挑んだ。

全日本学生出場を喜ぶ女子チーム

試合は8人が出場し、上位4人の総合得点で争われた。エースの中西菜津子（文2・大宮開成高）が50㍍で300点超えの高得点でチームを勢いづけると、他のメンバーも安定したプレーを披露。2438―2396の42点差で勝利し、関東5位となった。

佐藤孝博監督は、「リーグ戦ではエースの中西に頼らず、チーム全体で勝つことができた試合もあった。5位決定戦で勝利できたことはとても大きい。王座決定戦は初出場となるので、まずはベスト8を目指す」と語った。

リーグ戦のBブロックを3勝2敗の3位で終え、同じく5位決定戦に出場した男子は、3854―3858の僅か4点差で敗れ、惜しくも全日本学生王座決定戦出場はならなかった。（高田＝写真も）

7位に終わる

関東大学バスケットボール選手権＝4月21日～5月6日、世田谷区・駒沢オリンピック公園屋内球技場ほか

専大は7位で大会を終えた。

初戦の順大、続く神大に勝利し、順当にベスト8に進むと、準々決勝で同じ関東大学リーグ戦1部に所属する白鷗大と対戦した。

立ち上がりから連続得点を許す厳しい展開となったが、大会得点王のエース・盛實海翔（商3・能代工高）、リバウンドやディフェンスで存在感を発揮した寺澤大夢（文1・東海大諏訪高）の活躍で50―47とリードして後半へ。勝負は終盤までもつれ、1点リードされて迎えた最後の攻撃。大要所で3ポイントシュートを決めた大沢（日大戦）＝撮影・冨樫幸恵（文4）

青学から勝ち点

東都大学野球春季リーグ戦（青学大第3戦）＝4月27日、多摩市・多摩一本杉球場

青学大第3戦で力投する佐藤奨

不振だった打線がようやく爆発した。「頑張っている先輩のために負けられない」と大庭樹也（経済2・明豊高）が2点中前適時打を放ち先制。五回には白倉僚（経済2・文星芸大附属高）が左翼へ2点本塁打。金沢龍介（経済2・秋田高）、岡本良樹（経営3・専大松戸高）の適時打でリードを広げ7―3で勝ち、待望の勝ち点を得た。

ここまで投手陣は今季から先発の佐藤奨真（経営2・関東第一高）が4試合に登板し2完封。2試合に登板した吉川大翔（経済1・坂井高）は「持ち味の低めに伸びる球をうまく使えている」と頼もしい。

青学大戦に勝ち越したが3勝3敗は4位タイ。齋藤正直監督は「打撃は上向きで徐々に専大らしい野球ができている。佐藤奨、佐藤優人（経営2・前橋育英高）、吉川が投手陣を引っ張り、この試合のような展開を続けられれば」。残る試合を全勝し1部へ。ナインの闘志は衰えていない。（八代哲・経済2＝写真も）

リーグ戦10位

関東大学アイスホッケー選手権・Aグループ＝4月7～28日、西東京市・ダイドードリンコアイスアリーナ

大東大戦でゴールを決めた園田（右から2人目）をチームメートが祝福＝撮影・高橋玲央（法3）

トーナメント初戦で早大に敗れ、9～14位を決める順位決定戦にまわった。リーグ戦は大東大にゲームウィニングショットの末3―2で勝利。続く神大戦にも4―0で勝ち、リーグ戦で戦う2校から白星を挙げた。最終戦で日体大に敗れたが、昨年より順位を上げ10位で大会を終えた。

園田啓人（法1・日光明峰高）が3試合連続ゴールを決め、滝本瑛士（法1・軽井沢高）も2ゴールと新戦力の活躍も目立った。中澤勇祐主将（法4・駒大附苫小牧高）は「夏のトレーニングではフィジカル面を強化したい」と課題を口にした。

（飛田翼・文4）

Sports カレンダー

◇ゴルフ部
▽関東大学春季Aブロック対抗戦
5月26、27日（茨城県城里町・サザンヤードカントリークラブ）
◇柔道部
▽東京学生優勝大会
5月27日（千代田区・日本武道館）
◇相撲部
▽東日本学生選手権
6月10日（墨田区・両国国技館）
◇卓球部
▽関東学生選手権
6月21～23日（所沢市民体育館）
◇馬術部
▽関東学生三大大会
6月21～24日（山梨県北杜市・山梨県馬術競技場）
◇バドミントン部
▽関東学生選手権・女子選手権
6月4～23日（葛飾区総合スポーツセンター体育館ほか）
◇陸上競技部
▽関東学生対校選手権
5月24～27日（相模原ギオンスタジアムほか）
◇レスリング部
▽全日本選抜選手権
6月14～17日（世田谷区・駒沢体育館）

監督交代

◇水泳部
【競泳】
時任真一郎法学部教授
◇フェンシング部
前畑順一氏（商62法）

記録コーナー

◇ゴルフ部
▽春季関東女子大学Bブロック対抗戦（5月6、7日、高崎市・サンコー72カントリークラブ）3位
◇馬術部
▽関東学生新人競技大会（4月14日、相模原市・津久井馬術競技場）【新人戦中障害D飛越競技】近藤舞宝（経済2・津田学園高）・フェアリーカレ号＝3位
◇バスケットボール部
▽関東大学女子選手権（5月5～13日、各大学体育館ほか）ベスト16